令和4年度第3回狛江市市民活動支援センター運営委員会 議事録

- 1 日時 令和4年11月25日（木） 午後6時30分～8時
- 2 場所 市民活動支援センターこまえくぼ1234
- 3 出席者
委員 上田英司氏（委員長） 委員 伊藤輝芳（副委員長） 梶川朋氏（副委員長）
青木香奈氏 伊東達夫氏 長尾眞木氏 星恵子氏 松村正俊氏
三角佐智子氏
事務局 大山寛人（センター長） 日比野浩 武藤慎哉
- 4 委任状 繁平光伯氏 伊藤聡子氏 佐藤新哉氏 宍戸裕子氏
- 5 傍聴者 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため傍聴は中止
- 6 議題

事務局より報告

(1) 報告事項

市民活動支援センターからの報告

①指定管理業務報告

(意見交換)

(委員)

報告にある教育委員会からの、外国から来た児童・生徒に日本語を教える人を紹介してほしいとの相談に対し、どのような基準で団体を紹介したのか。

(事務局)

放課後の支援も含むため、こまえくぼが立ち上げに関わっている「にほんごしえん」という団体を紹介しました。

(委員)

同じような活動をしている団体がある場合、事務局でスクリーニングをして団体を紹介しているのでしょうか。また、日本語教室は市の事業として行っているが、なぜ、狛江市でやっている事業で対応が出来ないのかということが課題であると考えます。

狛江市の事業にまず相談して、そのうえで場所が遠いなどの理由で難しいということであれば、それは来る人の利便性を考えるなどの機会になると思います。

(事務局)

対象年齢が小学生・中学生の場合は基本的に支援の対象として利用してもらうと共に「日本語教室」の情報を必ず提供しています。

「にほんごしえん」の対象としている日本語は生活していくうえで困らない程度の生活上必要な範囲です。その先の日本語については「日本語教室」でしっかり学んでくださいというスタンスで考えています。

現在、教育委員会で誰が話を聞いて、どのようなルートでこまえくぼや団体に連絡するのか、その方法を教育委員会の指導室と定期的な話し合いを持ち、システム化に向け現状を確認しながら話し合いを行っています。

(委員)

市の中にはいくつか資源があるのに、みんながばらばらに動いていることが問題だと思います。えくぼの存在意義として、そういうものを一つにまとめるという提言まで持っていけると良いと考えます。

(委員長)

文部科学省が4月に行った統計では日本にいる外国籍児童の10人に一人が不就学という統計が4月に出ているので今後も相談記録をまとめて定期的に報告いただけると良いです。

(副委員長)

狛江市との協働事業について報告してください。

(事務局)

今までは市民の方が団体を作り、それに対し支援をしてきましたが、今回、新しい取り組みとして課題を市民の方に提起し、それに興味関心のある方が集まり団体化していく取り組みを行っています。

次年度は「にほんごしえん」というグループが自立した団体になっていくために市民協働提案制度に申し込み狛江市の協働事業となりました。

基本的に行う取り組みとしては、放課後の「日本語支援」（小学生の場合、授業が終わった時間に日本語を教える）土曜日（月3回）の「日本語サロン」を運営（親も一緒に来て勉強だけでなく楽しみながらお互いに異文化交流を行う）「やさしいにほんご」（日本語表記が難しくて分からないことがある公共施設の使い方や学校の手紙を簡単にする）があります。

事務局はこれまでこまえくぼだったので、運営を少しずつ市民の方に移しながら団体化を進めていきます。

(委員)

国際交流協会との違いは。

(事務局)

「にほんごしえん」は子どもの日本語学習だけでなく、子どもを抱える親御さん、親子を含めた交流の場となります。

(委員)

国際交流、子どもを支える団体など、どんどん活動が細分化されていくのではないかと考えます。しかし参加者の立場になってみると、全部参加したいと考えます。

(事務局)

「にほんごしえん」のメンバーには外国人の交流活動をしている方もいるので互いに協力していきます。今後の計画では日本語教室の方との勉強会を予定しています。細分化しないように横のつながりを持って支援できるように取り組んでいきます。

②専門部会活動の報告（広報・ホームページ・体験学習）

広報部会

8月9月活動。10月。12月号。掲載を準備中。

体験学習部会

8月6日はじめてのプログラミング体験受付30分で定員10名。

年度末の開催を検討。タブレットは市内ドコモショップが協力してくれました。

iPad10台を無料で貸し出してくれました。

WIFIの設定などはドコモスタッフが協力。

こまえくぼのHPで動画を公開中。

HP部会

月1回会議を開催。11月6日相談会を実施。少人数でじっくりと対応できた。

③検討チームの報告

・市民活動を始めるきっかけ検討チーム

会議2回開催。「狛江☆サミット」実行委員との共催、麻宮百氏に講師になってもらい30名定員のところ50名参加しました。

・社会資源の活用の推進検討チーム

会議2回開催。HP上に活動場所一覧は現在の状況を更新しました。見た時に分かりやすい表記について意見交換を行っています。

・調査・研究検討チーム

2回開催、昨年行ったアンケート調査の報告方法の検討。活動場所、資金について調べています。最終的には分析結果について狛江市と共有するように取り組んでいます。

(2) 協議事項

①令和5年度事業計画講座内容について

(事務局)

講座内容について意見を頂きたい。

(委員長)

講座の対象は個人。狛江市民を対象。テーマ、対象について検討してほしい。

(事務局)

条例改正にともないこまえくぼの役割が変わる部分があると考えています。こまえくぼは団体、市民活動を行いたい人が対象としていましたが、今後、個人も対象となり対象が広がっています。来年度が指定管理の最終年ですが新しい層の方に関心のある内容の取り組みが出来ればと考えています。

(委員)

市報にもホームページにも骨子案が公開されています。委員の方は市民説明に参加できない方向けの動画も紹介されているので見ていただきたい。

(委員)

この運営委員会は社協に答申ができる立場である。

この先、狛江市がどのような条件を出してくるのか分からないが、指定管理に関して何か条件が出た時、運営委員会はこうした方が良くと社会福祉協議会の会長に意見できるという意識を持った方が良い。

(委員長)

この先、各テーブルで15分ほど講座・研修の内容について討議いただければと思います。

(グループに分かれ狛江市民、個人を対象として講座内容について意見交換を行った)

次回日程

2月16日(木) 年間事業報告。